



# 大森二中だより

令和4年度 大森二中の合言葉「思いやり」  
スローガン 笑顔満開 いつも心に太陽を！

令和4年度  
令和4年11月号  
大森第二中学校  
校長 成清敏治  
電話 3762-6456

## アイヌの世界観から学ぶこと

皆さんはいろいろなマンガを読んでいることと思います。今日、紹介したいのは「ゴールデンカムイ」という本です。2018年に手塚治虫文化賞で大賞を受賞し、アニメ化も果たしました。この本をきっかけにアイヌ文化に興味をもった人もいるようです。30巻以上の長編になっていて、様々なことを学ぶことができます。その「カムイ」という言葉ですが、一般的には「神」と訳されます。しかし、アイヌの伝統的な考え方では、表を歩いている犬や猫、庭にやってくる雀や鴉はみなカムイです。そればかりではなく、道端に立っている木や生えている草、その間を飛び回っている虫なども、基本的にはすべてカムイです。カムイというのは、このように人間を取り巻いているほぼすべてのものを指しています。

皆さんは、日々食べ物を消費しながら生きています。何も食べずに生きてきた人はいません。毎日、牛や豚、ニワトリなどを殺し、その肉を食べています。生き物のことを考えて、その肉を食べていることを普段意識していますか？たいていの方は、考えたことはないと思います。それは自分たちの手で屠畜（いわゆる殺すこと）を行っていない、言い換えれば自分の食べているものが他者の命だと考える機会がありません。

この本で大変印象的な場面があります。シカを仕留めたアシリパ（アイヌの子供）が、シカを解体しながら、杉元（この本の主人公の1人）に腹の中に手を入れてみろと言います。「シカの体温がお前に移ってお前を生かす。私たちや動物たちが肉を食べ、残りは木や草や大地の生命に置き換わる。シカが生き抜いた価値は消えたりしない」 この言葉は、アイヌの伝統的な考え方とつながっています。人間は他者の命によって生かされている。それを常に意識し、自分を生かしているものに感謝して生きなければならないということです。狩猟民であったアイヌは、そのことを常に考えなくてはならず、それが動物たちを客として迎え、感謝して送り返すという世界観になっていったと思われれます。

これだけ時代の変化が激しく、息つく暇のない世の中だと、人間として大事なものを見失っているように思います。地球の資源は無限ではありません。特に身近な食べ物については、すべて命があるものだ、と考える余裕が必要ではないでしょうか。SDGsの取組といっても、先人に学んだり、心の余裕をもったりすることが大切です。皆さんもアイヌの言葉・考え方にヒントを得て、日々の中で実践できることを探してみましよう。

（11月7日 全校朝礼）